

岐阜女子大学 衣食住生活研究センター

衣食住生活 研究・活動レポート

第3号 目次

衣生活研究部門

〔活動報告〕..... 3

食生活研究部門

〔活動報告〕..... 13

住生活研究部門

〔活動報告〕..... 18

衣 生 活 研 究 部 門

[活動報告]

山縣市とのコラボレーション

ー地域の伝統工芸を取り入れたワーキングウエアの提案ー…………… 3

児玉 愛子

第9回 手づくり絵本コンクール…………… 6

児玉 愛子・藤木 節子

宮本 教雄・高橋 正司

齋藤 益美・三輪 聖子

第5回 伝統文化裁縫コンテスト…………… 7

児玉 愛子・藤木 節子

三輪 聖子・齋藤 益美

450学生デザインファッションショー(織田信長公岐阜入城・岐阜命名450年記念事業)…… 8

・2017NDKヤングデザインコンテストへの参加

児玉 愛子・藤木 節子

齋藤 益美

◆目的

昨年度は伊自良大実柿の柿渋の防腐テストと柿渋染製品の商品開発に取り組んだ。今年度はコラボレーションpart2と題して山口市のこどもげんきハウスと図書館の機能的なワーキングウェア(エプロン)のデザイン提案をする。特に山口市図書館のエプロンは、山口市の伝統工芸「伊自良大実柿の柿渋染」を行い、その布地を活用して機能的なエプロンの製作を行う。10月の栗祭りや大学のさぎ草祭でPRを図る。

◆活動方法

6月7日(水)山口市のこどもげんきハウスと図書館を訪問して、職員の方から聞き取り調査を行った。こどもげんきハウスは生後1か月の乳児から利用できる児童館である。エプロンの条件として、洗濯に耐え、乳幼児の肌に触れても害のない素材が望ましい。ポケットは必要不可欠であるが、乳幼児の足が入らない工夫をする。さらに乳幼児の興味をそそる工夫があるとよい。

図書館はおしゃれやかかわいらしさよりも機能性重視で、丈は長く脇あきがよい。ポケットは多めで、ペンホルダーもあるとよい。



写真1 こどもげんきハウスでの聞き取り調査

◆活動結果・考察

こどもげんきハウスのエプロンは動物や物語のコンセプトをもって製作をする。



写真2 デザイン案

図書館のエプロンは山口市の伝統工芸である「伊自良大実」で柿渋染をした布を使用することにした。

写真3 柿渋染め



8月7日(月)伊自良大実連合会の金子悟さんの協力を得て柿ZANMAIの工房で染色を行った。図書館エプロン用の布(天竺木綿)を「伊自良大実」で染めた後、消石灰で媒染すると「茶色」、鉄で媒染すると「灰色」、チタンで媒染すると「黄色」に発色をした。染色の楽しさがある。

8月18日(金)柿渋の原料となる「伊自良大実」青柿の収穫ボランティアに8名が参加をした。雨の中カッパを着ての収穫作業であったが、このひと手間の収穫が柿渋に欠かせない大切な作業であること学ぶことができた。



写真4 伊自良大実の青柿収穫

8月22日からそれぞれ下記のようなテーマを掲げてエプロンの製作に入った。

<こどもげんきハウスのエプロン>

A=幼児の好むクマのデザイン。ポケット口を斜めにして幼児の足が入らないように工夫をした。

B=恐竜をテーマに奇抜なおながポイント。恐竜の手や背中に背びれをつけ、幼児の興味をそそる。

C=生活習慣の歯磨きをテーマにしたデザイン。

マジックテープやゴムを付けて、パネルシアターのようにお話をしながら歯磨きの大切が伝わるようにした。



写真5 こどもげんきハウスのエプロン

<図書館のエプロン>

あ=バックをカバーすることを重視したデザイン。切り替えのグラデーション効果で華やかな雰囲気。

い=絞りを入れて染色を行い、おしゃれでソフトな雰囲気に。

う=機能性を重視したデザイン。ポケットの数を増やし、ペンホルダーを付け、全体的にシンプルな形に。



写真6 図書館のエプロン

10月1日(日)岐阜県山県市で開催された山県市ふるさと栗祭りに参加をした。製作したワーキングウェアの研究および活動報告の展示を行った。当日は山県市とコラボレーションして研究させていただいていることを説明した。また、11月11日(土)日～12日(日)のさぎ草祭では研究活動のパネル・ワーキングウェア展示、柿渋染のブックマーカー作り体験を行い、地域住民や学生に柿渋染の魅力を伝えることができた。

10月25日(水)山県市立図書館、こどもげんきハウスへ製作したワーキングウェアの着装及び仕様評価を依頼し、アンケート(デザイン・機能性・幼児や市民の反応等)を回収した。



写真7 図書館にて着用

A = くまのデザインは乳幼児に安心感を与え、人気があった。

B = 恐竜のデザインは可愛いですが、幼児や保護者にインパクトが大きすぎて、怖がられた。椅子に掛けると背びれが邪魔になる。寒い時に上着を着ると背びれが見えなくなり残念。

C = 発想は良いが、口が大きすぎて怖い。洗濯に耐えない。

あ = バックスタイルへのストレスがない。デザインや丈もよい。

い = 絞り染めが可愛いですが、丈が長いので足にまとわりつく。

どちらかというとな家庭着にしたい。

う = 色が明るいので、カウンターも明るく見える。ポケットが多くて使いやすい。着脱がスムーズにできた。

考察

2年間山県市との伝統産業コラボレーションに取り組み、「伊自良大実」の青柿の収穫から柿渋染など貴重な体験をすることができた。媒染剤によって発色が異なることに興味を持ち、天然染料は何度も繰り返し染色することで深い味わいが出る特徴を理解することができた。そして地域の方々が伝統産業を発展させようと努力されている姿に感銘を受けた。今後は山県市の伝統工芸である柿渋染が地域だけでなく、より多くの人に理解されるよう地域活性化に協力していきたい。

第9回 手づくり絵本コンクール

児玉愛子、藤木節子、宮本教雄、高橋正司、齋藤益美、三輪聖子

◆目的

平成22年より赤ちゃんが初めて触れる絵本「ブックスタート」をテーマとして「手づくり絵本コンクール」を実施している。今年で第9回を迎えることとなった。

絵本が子どもの発達に良い影響を与えることは、様々なところで言われており、成果も報告されている。また、製作者自身も子ども理解と優れた絵本への関心を深めることができ、その他にも1つの物を仕上げる達成感、継続する力、創造力と想像力、思いやりの気持ち、手先の使用による脳への刺激など、絵本を製作することの有用性は多く認められている。教育の一環として絵本製作に取り組み、その成果を発表する場として、本コンクールを実施する。

◆活動方法

チラシの配布、大学ホームページを通して、中学生以上を対象に作品を募集している。絵本は、一般絵本、布絵本、立体絵本、仕掛け絵本など乳幼児を対象にした作品として、手づくりとしているためCG作品は対象としていない。

4人の審査員によって厳選なる審査を実施し、大賞1点、優秀賞2点、岐阜女子大学賞2点、入賞4点、審査員特別賞1点を選出する。11月のさぎ草祭期間中に表彰式を行なう。なお、選出された作品は、2月まで岐阜女子大学図書館にて展示を予定している。

◆活動結果・考察

回を重ねるごとに応募作品が、増加傾向にある。第9回の応募数は385作品であった。高等学校でまとめた応募が最も多いが、近年は大学HPを見て九州や関東からも応募がある。また、一般の方も増加しており、退職後の生涯学習として作品に応募される方もある。今回の受賞作品は次に示す。



大賞



優秀賞



優秀賞



岐阜女子大学賞



岐阜女子大学賞



入賞



入賞



入賞



入賞



審査員特別賞

第 5 回 伝統文化裁縫コンテスト

児玉愛子、藤木節子、三輪聖子、齋藤益美

◆目的

平成 18 年に改正された「教育基本法」の前文に、「伝統を継承し」という文言が加えられ、教育の目標に「五、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」が掲げられた。それを受けて平成 20 年の学習指導要領改訂では、教育内容の主な改善事項の一つに「伝統や文化に関する教育の充実」が掲げられた。家庭科の関連事項としては「衣食住にわたって伝統的な生活文化に親しみ、その継承と発展を図る観点から、その学習の充実が求められる」とある。本学は昭和 43 年に開学し、昭和 44 年から家庭科教員免許状の認定を受け、家庭科教育のスペシャリスト育成に力を注いでいる。

本コンテストは中高生が日本の伝統文化にふれ、布を用いて作品を製作することを通して、製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、ものづくりの楽しさを実感し、生活を豊かにするために活用する能力と、創造力を育てることをねらいとしている。

◆活動方法

チラシの配布、大学ホームページで、県内を中心に全国の中学・高校生を対象に作品を募集している。『日本の良さを発見〜手づくり好きな人 日本の伝統文化を大切にしたい人 日本の文様、伝統色、染色、工芸などに興味のある人 あなたのアイデアとセンス、技術をこの機会に作品にして応募してみよう!』と呼びかけている。

作品は衣装を製作する衣服作品部門と、高度な技術がなくてもできるアイデア作品部門とに分かれており、家政系以外の高校生や中学生が興味を持ち応募することも期待している。

◆活動結果・考察

衣服作品部門の 1 次審査応募悪品数は 77 点、アイデア作品部門は 18 点であった。

第 5 回(平成 29 年度)の衣服作品部門の優秀作品は次のとおりである。

最優秀賞



堂本 しずく
岐阜県立大垣桜高等学校

優秀賞



霞 藤衣
愛知県立一宮高等学校

優秀賞



安田 奈央
岐阜県立東濃実業高等学校

450学生デザインファッションショー（織田信長公岐阜入城・岐阜命名450年記念事業）

・2017NDKヤングデザインコンテストへの参加

児玉愛子、藤木節子、齋藤益美

◆目的

平成28年度入学生より、生活科学専攻の特徴として洋服造形・和服造形実習Ⅰ～Ⅳまで必修とし、基礎・基本の徹底を図っている。全国的にも貴重である実技指導のできる家庭科教員養成を担っている。そこで、ファッション分野に興味・関心を持ち、コンテストへの応募を希望する学生対象に平成29年度挑戦をさせることとした。初年度のため、地元岐阜において開催された二つのコンテストに参加した。

◆活動方法

1 「450学生デザインファッションショー（織田信長公岐阜入城・岐阜命名450年記念事業）」には、2作品出品戦国時代に陣羽織の材料として用いられた羊毛を使用し、戦国のファッションリーダー信長公の先進性を表現したデザインで、チーム製作とした。3年の大江成美と西尾望がモデル・リーダーを務めた。平成29年10月22日岐阜市ぎふメディアコスモスでのファッションショーに参加。ファッション大国イタリア・フィレンツェのファッション学校ポリモーダのデザイナーや学生も参加。本ファッションショーは公募でなく岐阜地区を中心とした専門学校3校、高校7校、短期大学1校と本学への依頼によるもので次代のファッションを担う世代育成に繋げることと地場産業を紹介し地域活性化に寄与することが目的とされた。ショーの後にポリモーダのデザイナーや地元のファッション関係者による作品講評会が行われた。

2 2017NDK ヤングデザインコンテストⅪ テーマ：煌き(きらめき)

NDKヤングデザインコンテストは、将来ファッション産業のプロを目指して頑張っている若者達を対象に、真のプロ育てべくデザインや技術指導会、求評会、公共施設での展示を行い、人材育成によるファッション産業の活性化を目標に開催されている。平成18年からNDK岐阜支部が主催。

デザイン画を7月15日2点応募し、入選。技術指導会に参加して、パターンメイキング・仮縫い・補正チェックのノウハウを具体的にプロから指導頂き、緑のワンピースとピンクのコートの2点が完成。

◆活動結果・考察

1 赤い衣装を製作したリーダー大江成美(モデル兼)、土肥彩香、笠井奏、丹野寛代チームはタイトル「ふたも(二面)」。黒地に赤の金刺繍帯地を前身頃に配したプリンセスラインミニ丈のワンピースに赤のウール地にチェック柄や無地をパッチワークしたマントを羽織ったり、ウエストを帯紐で結んでオーバースカートにと着こなしの楽しさを存分に表現した。ショー会場参加者による投票で「マイベストワン」に選ばれた。一人ではデザインや製作に係る技法も浮かばなかったのが、チームで仕事することで支えられ完成できたと実感。初めてのステージでのショーは、緊張と不安でいっぱいであ

ったが、マネキン展示でなく自分が着装しての喜びも感じる貴重な経験であった。

青い衣装を製作したリーダー西尾望(モデル兼)、南部美玖、東方梨華、中島綾女チームは、タイトル「GIFU MODERN」。ワンピースに無彩色のストライプ柄を用い前後中心に切り替えタックをプリンセスラインのドレスパターンにバランスよく取り、縦のラインを強調し洗練されたデザインとした。袖は膨らみと共にミシンタッキングを施し素材に一工夫した。陣羽織をイメージしアレンジしたジレ(ロングベスト風)は前立てに青色のシャギー地をアクセントに、背には、家紋「木瓜紋」を配した。裏地にはピンクの花を散らし優雅さも表現した。

「450 学生デザインファッションショー」



—イタリアのデザイナーと共に—



2018年2月10日岐阜市の玄関口、JR岐阜駅前にある問屋町地区の活気を取り戻そうと若手店主らが企画したイベント「Tonya(問屋)EXPO」における路上ファッションショーにも、2作品を着て参加。

—問屋町のレッドカーペットをウォーキングする学生(後ろ姿)—



2月11日19日にNDK作品審査・コンテストがグランヴェール岐山にて行われ、3年の西尾望のデザインが通過し製作した2点がともに「岐阜新聞社賞」「岐阜市教育委員会賞」受賞。今回の布地は、羽島市にあるテキスタイルマテリアルセンターにおいて色決め、デザインイメージシルエットが表現できる素材選びをじっくりと検討し、決定できた。デザイン作画成からパターンメイキング、仮縫い、フィ

ッティング、裁断・しるしつけ、縫製の工程において一つ一つ拘りながら、丁寧な仕立てを心がけ、おしゃれで優雅な作品にまとめることができた。トークショーにも参加し自分のデザインイメージを言葉で表現することの難しさとともに人前で話すという貴重な体験ができた。入選作品は、岐阜市役所南庁舎ウインドウに12月5日～15日「岐阜新聞社賞」のコート、1月19日～29日「岐阜市教育委員会賞」のワンピースが展示され、道行く人々に見ていただく機会を得た。

－「岐阜市教育委員会賞」受賞作品－



－「岐阜新聞社賞」受賞作品－



－考察－

1「450 学生ファッションショー」、2「NDK ヤングデザインコンテスト」ともに、ファッション分野の学びに意欲的な学生を対象として参加し、学修の集大成としてデザイン・企画力及び表現力、製作技能の向上を図ることができた。日頃の学修成果を学外において公表することは大変貴重な体験となり評価を得ることで、学生達の自信となり更なる成長へと繋がったと感ずる。

今後も計画的に何事にもチャレンジする精神を大切に、各種コンテスト等に向き合わせ、学生の可能性に挑戦させたいと考える。次年度以降、各学年に応じた対策やグループワークの実践を講じて積極的に「ものづくり」を継承・創造させる予定である。

食 生 活
研 究 部 門

〔活動報告〕

バローお子様ランチコンテスト実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

水野 幸子・和田 玲子

大場 君枝・平林 綾乃

長浜 小春

豚肉を使用した親子料理教室の開催・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

水野 幸子・太田 真実子

平林 綾乃・瀬上 佳世

バローお子様ランチコンテスト実施報告

水野 幸子 和田 玲子 大場 君枝 平林 綾乃 長浜 小春

◆目的

平成 21 年より始まり、今年で第 11 回目を迎えた。小学生が自分の家族の為に考えて調理することを目的として、家族がひとつになり、盛り上がりを見せている。また、本学の学生がサポートとして実際に小学生の調理現場に入ることによって、現在の小学生の食に対する意識や調理技術を知り、今後管理栄養士として社会で働く前に 1 つの栄養教育の場を体験することもできる。

◆活動方法

テーマに【僕の・私の自慢のランチ・お弁当】と揚げ、小学生 2 人 1 チームとし、ランチ・お弁当のアイデアを募集された。審査員による書類審査を行い、決勝大会進出 20 チーム(40 人)を選考し、選ばれたチームは本学での決勝大会において実際に制限時間 90 分以内に考えたランチの調理を行った。コンテスト規定により保護者は一切調理室に入室できない為、本学の 4 年生 10 名が 2 チームに 1 人付き、調理上のサポートを行った。できたランチの中から審査員による審査にて各賞を決定し表彰を行った。

当日はゲストかつ審査員でもある森野熊八様による毎年恒例のクッキングショーも実施され、今年にはボロネーズライス、カスタードマンゴーの 2 品を披露された。

今年の日程と、コンテスト運営に関わる協賛は以下の通りである。

募集締切:平成 30 年 7 月 16 日(月・祝)

書類審査:平成 30 年 7 月 26 日(木)

決勝大会:平成 30 年 8 月 26 日(日)

【主 催】 ぎふチャン・岐阜新聞

【特別協賛】 株式会社 バロー

【協 賛】 イチビキ , 伊藤園 , ミツカン
サントリーフーズ , 理研ビタミン

【協 力】 岐阜女子大学



写真1 調理の様子

◆活動結果・考察

コンテストへは 88 チームの応募があり、書類審査を通過した 20 組が実際に自分の考えたレシピを基に調理を行った。ランチには、小学生らしく可愛らしい料理もあれば、懐石風、カフェ風にアレンジしたもの等、こだわりが多くみられた。その背景に、親が子へ自分の教えられてきた料理を教えつ

つ、子どもの考えを尊重しながら家族一団となってコンテストに向けて一緒に取り組んだ姿があったと感ずることができず。

審査員の評価では、子どもらしさはもちろんであるが、それ以上に味を評価し、味の重要性を強く話された。夏休みの恒例行事として数回参加し、予選通過をしているチームもあり、料理に対してより興味を持つことができたのではないかと考える。学生はサポートする中で小学生の調理技術の実際に触れ、豊かな発想や行動に驚かされた。将来社会に出て、栄養教育を行うにあたって貴重な経験ができたのではないかと。

最後に本活動は本学学生の上谷美遥さん、師井菜緒子さん、八木彩加さん、砂山美紀さん、高橋真由美さん、岡村那津海さん、飯田佳奈さん、渭原はるなさん、杉本愛さん、梯友香梨さんの協力にて実施できたことを申し添える。

豚肉を使用した親子料理教室の開催

水野 幸子・太田 真実子・平林 綾乃・瀬上 佳世

◆目的

岐阜県産豚肉の消費拡大、地産地消を進めるため、豚肉の新しく、おいしいメニューを紹介し、普及拡大を図るとともに、養豚についての理解を深めてもらうことを目的に岐阜県養豚協会とともに親子料理教室を開催した。

◆活動方法

平成 30 年 8 月 17 日(金)、本学 4 号館 2 階の食のサポートルームにて、岐阜県及び近県在住の親子(小学生とその保護者)を対象とした親子料理教室が開催された。料理教室では、事前に応募したレシピの中から、優秀賞に選ばれた「パイナップルとハチミツレモンとナスの豚肉巻フライ」と「豚肉たっぷり赤みそしめん」の 2 作に加え、カリウムを豊富に含み熱中症予防にも最適なスイカを使用した「白玉スイカぜんざい」の 3 品を調理し試食をした。また、豚肉への興味、理解を深めてもらうために、豚肉の栄養的特徴を踏まえた献立の立て方に関する講義や豚肉に関するクイズを行った。

◆活動結果・考察

今回、12 組 24 名の親子が参加した。料理教室では、デモンストレーションを真剣に聞き、親や補助学生の手伝いを受けながら積極的に調理に取り組んでいた。また、豚肉クイズでは番号札を元気よく挙げている姿が見受けられ、とても楽しんで学習できた。実際に調理することでレシピではわからない苦労さや楽しさも体験する事が出来たと思うし、電子黒板や SAT システムを使用した講義、クイズにすることで楽しみながら豚肉についての理解を深める事が出来たと考える。

最後に本活動は本学学生である鋒山紗彩さん、橋本桃子さん、師井菜緒子さん、西川侑香さん、虫賀円華さんの協力にて行うことができ、また、学生の学びになっていることを申し添える。



写真 1 調理をしている様子



写真 2 豚肉講義の様子

住 生 活

研 究 部 門

〔活動報告〕

各務原市空き家リノベーション事業	18
黒見 敏丈・大崎 友記子	
根羽村活性化プロジェクト	20
黒見 敏丈・大崎 友記子	
災害時浴室棟建設プロジェクト	22
黒見 敏丈・富士 霸王	
大崎 友記子・高橋 信行	
山県市空家等リノベーションデザイン提案事業	25
大崎 友記子・黒見 敏丈	
山県市四国山香りの森公園改修等助言業務	27
黒見 敏丈・大崎 友記子	
森田 実沙	

各務原市空き家リノベーション事業

黒見 敏丈・大崎 友記子

◆目的

本事業は、深刻化する空き家の増加と人口減少に対応するため、若い世代の移住・定住を促進するために、産官学金の四者の連携協定を結び空き家のリノベーションを進めようとするものである。

そのため、本学には建築・インテリアを学ぶ女子大生の若い自由な発想に基づく空き家のリノベーションデザインの提案を求められたものであり、昨年度に引き続き2年目の事業である。

◆活動方法

本事業は、インテリアデザイン論・実習Ⅰ・Ⅱ(3年生の授業科目)の1つの課題として、受講生6名が市より提示されたモデル空き家2軒のリノベーションデザインに取り組んだものである。

◆活動概要・考察

(1)プロジェクト準備:6月5日(月)13:10～14:40

市から5月末に提供を受けたモデル空き家の基本図面と写真をもとに、受講生全員によるアイデア(どのようなテーマ、活用等が考えられるか)抽出を行った。その上で担当物件を割り振り、前学期を中心にアイデアの具体化を図ることとした。

(2)リノベーションのコンセプトの明確化とデザインの具体化:10月2日(月)～12月5日(月)

前学期の検討結果を踏まえ、学生各自が分担物件のリノベーション・コンセプトを明確化し、そのコンセプトに基づいてリノベーションデザインの具体化を図り、3D-CADソフトや手描きのスケッチパースによりプレゼンテーションシートにまとめていった。

(3)成果の報告会:11月13日(月) 10:00～11:00 於 大学本館大会議室

市の担当課、各務原市空き家リノベーション事業推進会議会員の民間設計事務所、空き家の所有者の方々を本学にお招きし、学生が6つのデザイン案のプレゼンテーションを行った。学生の思いのこもったプレゼンテーションに市の方々も感激され、その内容も大変好評であった。市では、これらの提案を受けて、空き家の利活用の促進に努める予定となっている。

なお、報告会には、新聞社1社の取材も入り、広く報道された。



写真1 報告会の様子1



写真2 報告会の様子2

(4)考察

今回の事業は、学生にとっては、現存する建物を対象としてリノベーションデザインに取り組むことができ、またそのデザインに基づいて実際にリノベーションが行われる可能性を持っているという点で、通常の授業課題とは異なり、緊張感と期待感を持ちながら真剣にデザインに取り組めたと考えている。昨年度に引き続きこのような機会を提供していただいた各務原市には深く感謝申し上げる次第である。

根羽村活性化プロジェクト

黒見 敏丈・大崎 友記子

◆目的

本事業は、深刻な過疎化と高齢化、産業の停滞に悩む典型的な山間地域に位置する長野県根羽村の森林組合の依頼により、村の活性化のための学生提案を求められたものである。

今回は、村の主要産業である林業と観光業の改善方策について、現地での研修に基づく提案を行った。

◆活動方法

本事業は、デザインワークショップ演習(2年生の授業科目)の1つの課題として、受講生13名が参画して、現地での研修、改善方策の検討を行った。

また、4年生2名が、卒業研究の研究対象として根羽村を選択し、研究を進めた。

◆活動概要・考察

(1)プロジェクト準備:5月23日(火)13:10~14:40

5月27日(土)~28日(日)に行う現地研修に向け、プロジェクトの趣旨、現地研修のスケジュールと役割分担などについて確認した。

(2)現地研修:5月27日(土)~28日(日)

根羽村の活性化、特に根羽杉の活用拡大に向けた学生提案を行うため、まずは根羽村の現状を把握し、提案のアイデアにかかるヒントを得るために根羽村を訪問した。



写真 1 セルフビルド物置の試作



写真 2 観光拠点施設の調査

2年生は、根羽杉を使ったセルフビルド物置のデザイン案を検討するために現行キットの組み立て体験、4年生は卒業研究として7坪別荘村および公共施設等の改善計画案などに取り組むための現地調査、さらには全員での主要観光拠点の現地調査などを行った。根羽村及び根羽村森林組合のご厚意により、交通機関としてのマイクロバス、宿泊場所としてのファームイン根羽の提供を受けた。

(3)改善方策の検討:5月30日(火)～7月11日(火)

現地研修の結果を踏まえ、デザインワークショップ演習の時間を使って、根羽杉を使ったセルフビルド物置のデザイン改善案、村内観光拠点の改善整備の方向性について検討を進めた。

これらの成果については、報告書として取りまとめ、8月上旬に根羽村森林組合へ提出した。

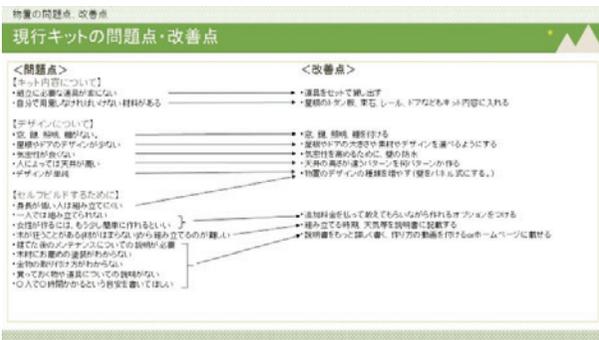


写真 3 セルフビルド物置の問題点と改善点



写真 4 観光拠点施設の改善方策

(4)今後について

既に提出した報告書の成果に加え、卒業研究として4年生2名が取り組んだ7坪別荘村および公共施設等の改善計画案についても、年度末に根羽村森林組合へ提出をし、今後現地でのプレゼン等を行う予定である。

(5)考察

今回の事業は、学生にとっては、山間地域の深刻な現状に触れることができた貴重な経験であったとともに、実際の商品であるセルフビルド物置や実際の観光施設を対象として改善策の検討に取り組むことができたという点で、通常の授業課題とは異なり、緊張感と期待感を持ちながら真剣に検討に取り組めたと考えている。このような機会を提供していただいた根羽村森林組合および根羽村には深く感謝申し上げる次第である。

災害時浴室棟建設プロジェクト

黒見 敏丈・富士 霸王・大崎 友記子・高橋 信行

◆目的

特別プロジェクト実習では、平成16年度以降、実際の建物の企画設計から建設までを1～3年生が協働で実施するプロジェクトを展開してきている。本プロジェクトもその一環として実施しているものである。

本学体育館は災害時の避難所に指定されているが、東日本大震災や熊本地震の避難所生活の問題点を教訓として、避難所生活をより快適にするために本プロジェクトでは体育館に隣接する浴室棟を建設することとして、一昨年度から建設工事を進めてきた。昨年度までに建物本体工事はほぼ完了し、本年度は、外部の薪置き場の設置工事、薪置き場及びコンクリート部分の塗装、床スノコ・置き階段・ポーチ手すり等の製作など最終仕上げの工事を行い、竣工式を挙行了。

◆活動方法

3年生をリーダーとして、1～3年生をA班、B班の2つのグループに分け、隔週で木曜日のⅢ・Ⅳ限を使って工事を進めている。

工事に際しては、工務店等の職人さんと教員の指導のもと、安全に建設工事の実際を体験することを主眼に進めた。

また、竣工式は3年生を中心に、準備から当日の運営までを行った。

◆活動概要・考察

(1) 薪置き場の設置工事:4～5月

昨年度設置済みの柱脚金物の上に、ジャングルジム状の薪置き場の部材を組み立てていった。多数の部材からなり、一部の接合部を学生自身が加工しながら、現場合わせて組み立てた。



写真1 薪置き場設置工事の様子1



写真2 薪置き場設置工事の様子2

アーチ部材は加工が困難なため、外部業者に発注して製作して頂いた。薪置き場が組み終わると、設計時の狙い通りに、美しく立派な外観となった。

(2)塗装工事:5月

組み上がった薪置き場、基礎コンクリート部、室内の土間コンクリート部などを白色に塗装を行った。外壁の白とマッチした外観に仕上がった。



写真3 塗装工事の様子1



写真4 塗装工事の様子2

(3)細部造作物等の製作・取り付け工事:6月

浴室内の床スノコ、浴槽の蓋、玄関ポーチの手すり、ポーチに上がるための置き階段を製作し設置した。SMI出しから加工までを学生が行うことができた。



写真5 床スノコ製作の様子



写真6 浴槽の蓋製作の様子

(4)その他

その他の設備工事、煙突の取り付けなどは学生では施工できないため、業者に委託した。また脱衣室の目隠しともなる暖簾は、住居の学生がデザインし、生活科学専攻にお願いをして染め加工、製作をして頂き、竣工式を迎える準備が整った。

(5)竣工式

工事と並行して、6月から竣工式の準備を行った。3年生を中心に役割分担を決め、招待する

方々のピックアップと案内状の配布、マスコミへの取材依頼、記念配布物(紅白饅頭、お茶、パンフレット等)の手配と準備、建設経緯紹介スライドの作成など、着々と準備を進めた。

6月22日(木)には、五右衛門風呂の試し炊きを含めたリハーサルを行い、問題点と課題をクリアした。

6月29日(木)の竣工式当日は、これまで災害時浴室棟の建設でお世話になった方々、大学関係者などのたくさんの来賓をお迎えし、滞りなく式を進めることができた。



写真7 竣工式の様子



写真8 竣工式火入れの様子



写真9 災害時浴室棟外観

(6) 考察

学生にとっては自ら手がけた建物が実際に完成し、その喜びを分かち合うことができたことは非常に貴重な体験であったと考える。特に3・4年生は設計、着工から完成までを一貫して体験し、また竣工式という式典の準備から当日運営までを手がけることができたことは貴重な経験となった。今後も学生が実社会で活躍できるよう指導に取り組んでいく所存である。

最後に、このような貴重な機会を提供頂いた大学と協力をいただいた方々すべてに深く御礼申し上げる次第である。

山口市空家等リノベーションデザイン提案事業

大崎 友記子・黒見 敏丈

◆目的

本事業は、「山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標2(みんなでいつまでも!)の若者の移住・定住施策に位置づけられており、国の地方創生加速化交付金事業の対象である「空家トリアージ発展加速化事業」の構成事業のひとつである。

昨年度実施した山口市空家等リノベーションデザイン提案の継続事業として、空家の貸し手の発掘(子育て世代の移住、多世代居住)、貸し手にインセンティブを与える実績をつくるために、モデル改修空家をピックアップし、女子大生の視点からリノベーションデザイン案を提示することを目的としている。

◆活動方法

今年度の事業は、山口市より提示されたモデル空き家4軒のリノベーションデザイン案を住居学専攻3年生の応用演習Ⅱの課題として、受講生7名が取り組んだ。また、空き家情報を子育て世代などに広く伝えるために、文化創造学部アーカイブ専修のメディア論Ⅱを受講している2年生10名と、特別プロジェクト実習内で3年生11名が、それぞれ山口市のホームページリニューアル案を課題として取り組んだ。

◆活動概要・考察

住居学専攻では

(1)現地調査:10月30日(月)14:30~18:00

山口市まちづくり・企業支援課の担当職員の方と今回モデル改修空家の対象となった4軒の現地調査を行った。事前にいただいた平面図をもとに柱や壁の位置、建具形状などの実測を行い、建物内部、外部の様子を写真で記録した。



図1 現地調査の様子

(2)リノベーションのコンセプトとデザインの具体化:11月14日(火)~2018年1月23日(火)

現地調査をもとに、4軒の空き家の現況図面の作成を行った。また、物件ごとに対象者を子育て世代、定年後の夫婦世代などの設定を考え、コンセプトの明解化とデザインの具体化を図り、リノベーション案を作成。平面図だけではなく、部屋のイメージを伝えるために3D-CADや手書きのスケッチパースも作成した。



写真2 イメージパス作図の様子



写真3 3D-CADによるイメージパス

アーカイブ専修では

(3) ホームページリニューアルワークショップ:11月14日(火)

山県市の担当者から、山県市の概略や空き家プロジェクトについての説明を伺い、実際のホームページを見ながら、現況問題点、活性化のためのアイデアなどのワークショップを、2、3年生の合同で行った。特に子育て世代を呼び込むには、現況のホームページの構成内容、使用写真、色使いなど、改善すべき点が多く上げられた。



写真4 山県市職員による概要説明



写真5 ワークショップの様子

(4) ホームページリニューアル案作成:11月28日(火)～2018年1月30日(火)

2年生はグループごとに、3年生は個人で、それぞれの視点から山県市ホームページ構成案を考え、空き家情報に関しては、住居学専攻から提供されたリノベーション案を取り込み作成した。

(5) 成果の報告会:2018年3月12日(月)

山県市の担当職員の方や、空き家の所有者の方々を本学にお招きし、住居学専攻で作成したモデル空き家4軒のリノベーション案とアーカイブ専修のホームページリニューアル案のプレゼンテーションを行った。

山口市四国山香りの森公園改修等助言業務

黒見 敏丈・大崎 友記子・森田 実沙

◆目的

本事業は、「山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標4(みんなを呼び込む!)の交流人口の呼び込みに係る施策に位置づけられ、国の地方創生加速化交付金事業の対象である「観光フロンティア市場化事業」の構成事業のひとつである。

昨年度実施した山口市観光拠点等リノベーション提案事業において、伊自良湖周辺及び四国山香りの森公園について潜在的魅力と問題点を探り、改善整備の方向性を提起した。この中で伊自良湖周辺については農産物販売所と公衆トイレの具体的な改修案を提案し、その提案を踏まえた改修工事が今年度末には完了予定となっている。一方で四国山香りの森公園については、改善整備の方向性のみの提案となっていたため、今年度はハーブレンド等の具体的な改修案を提案することを目的とした。

◆活動方法

本事業は、本学住居学専攻の学生と指導教員で構成されるプロジェクトチームを組織して取り組んだ。参画した学生は、住居学専攻2年生である。

◆活動概要・考察

(1)現地確認・打ち合わせ:5月16日(火)15:00~17:00

プロジェクトを進めるにあたり、改修等を実施する対象物件と具体的な改修方針を山口市産業課とともに確認するため、教員3名が現地(四国山香りの森公園)を訪れた。

(2)現地調査:10月3日(火)15:00~17:00

2年生13名と教員3名で現地を訪れ、ハーブレンドの建物内外の現状確認と細部の採寸、ハーブガーデン、2カ所の公衆トイレ、香りドーム等の現状確認を行い、改修提案の方向性の共有を行った。



写真1 現地調査の様子1



写真2 現地調査の様子2

(3)現地調査結果に基づくハーブレンド改修案の作成:10月12日(木)～11月30日(木)

現地調査の結果を基に、特別プロジェクト実習の時間(木曜日のⅢ・Ⅳ限目)を中心にハーブレンドの具体的な改修案(平面図、展開図、パース)を作成した。

ハーブレンド改修については、今年度中の改修工事を行うことになっており、この部分の提案書を一足先に山県市産業課へ提出した(11/30提出)。



図3 ハーブレンド改修案平面スケッチ



図4 ハーブレンドトイレ改修案イメージ図

(4)ハーブレンドの前庭およびハーブガーデンの改修案の作成:10月26日(木)～1月中旬

ハーブレンドの改修をより効果的にするため、ハーブレンドへのアプローチともなっている前庭とハーブガーデンの改修提案を行うこととした。しかしながら、本学では造園や外構のデザインに関する授業がないため、外部講師(造園計画のプロ)を招き、造園計画の基本を学ぶとともに、改修案への助言をいただいた。



写真5 外部講師講習会の様子



写真6 講評会の様子

10月26日(木)の特別プロジェクト実習の時間を使って、造園計画の基本の講習会(全学年対象)を行うとともに、11月2日(木)に外部講師と2年生が現地を再調査し、その知識と調査結果を踏まえ

てハーブレンド前庭等の計画案を2年生が作成。11月21日(火)の特別プロジェクト実習の時間に計画案を発表、外部講師による講評を実施した。その後、1月中旬を目処に、2年生が作成した計画案の良いところを取りまとめてハーブレンドの前庭及びハーブガーデンの最終計画案を取りまとめた。

(5)その他の改修案の作成:11月30日(木)～1月中旬

その他の改修提案対象を昨年度の提案と今年度の現地調査を踏まえて既設の公衆トイレ2カ所と香りドームに絞り込み、2年生の中で担当を決め改修案の作成を行った。

公衆トイレのうち、香りドームとハーブレンドの間にあるトイレについては、動線の見直しを図るために目隠しの新設案を、芝生広場側にあるトイレについては老朽化が著しいため改築案を、香りドームについてはより一層の利用を促進するためのベンチのデザイン案を作成した。

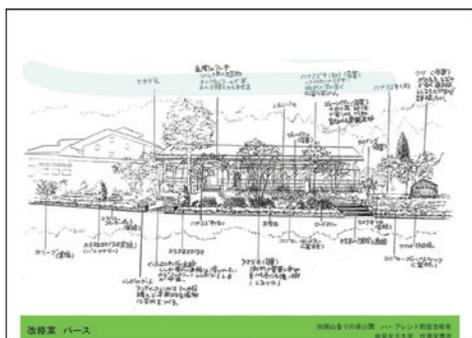


写真7 改修案パース



写真8 屋外トイレデザイン案2

(6)その他

全体の成果を取りまとめた報告書を2月末日に作成した。

また、今年度事業の成果については、来年度に四国山香りの森公園の新規指定管理者及び山県市に対してプレゼンを実施する予定である。

岐阜女子大学 衣食住生活研究センター 研究・活動レポート
第3号

発行年月日 平成30年10月31日発行
発行者 岐阜女子大学
〒501-2592 岐阜市太郎丸80番地
TEL058-229-2211
印刷 ヨツハシ株式会社
〒501-1136 岐阜市黒野南1丁目90番地
TEL058-293-1010